

2000年度 事業報告書

特定非営利活動法人 アジア日本相互交流センター

1 事業実施の方針

アジアの支援を必要とする人々、特に、経済的に貧しく、最低限の生活を維持する収入を得られない人々、就学の機会が与えられない子供たちに対して、生活向上、教育、福祉、医療の支援などの活動を行い、これらの人々の自立支援を進めるとともに、アジアの人達との相互理解を促進するために、今年は以下の点に留意して事業活動を展開する。

- ・フィリピンで支援を必要としている人々の自立および生命の維持に役立つ支援活動を行う。
- ・フィリピンおよびアジアで厳しい環境にある人たちの実情、児童労働、貧困などの課題について、日本の人々に報告し共有する。
- ・支援活動に参加する人達に、支援から派生した成果に関して十分な情報を提供するとともに、活動に参加する人達の自己実現を支援する。

2 管理運営に関する事項

1) 運営体制の強化に関する報告事項

2000年は、ICANにとって、運営力の強化の年になりました。まず、日本の事務局では、パート採用により、事務局を週3日制へ移行。5月にはボランティアさんの増大、会員、学校等からの問合せ対応から事務局スペースを拡大しました。また、7月に法人格を取得し、社会的役割を担う団体として決意を新たに致しました。一方マニラにおいても数名のボランティアさんにお手伝い頂くようになり、現地の活動も充実してきています。(現在のボランティア数 日本事務局30名程、マニラ5名程。専従スタッフは各1名。)

これも皆様のご理解とご支援の賜物と考えております。今後とも、宜しくお願いいたします。

2000年 1月	日本事務局で有給スタッフ(パート)を採用。(事務局週3日(月、水、金)体制)
2000年 4月	法人化 認証申請
2000年 5月	事務所を拡大(NPOプラザ内の1室を2団体で共同利用)
2000年 6月	2001年1月採用の事務局専従スタッフの公募 国際ボランティア貯金の配分団体となる。
2000年 7月	特定非営利活動法人 認証 および 登記
2000年 8月	マニラで在住日本人を対象にしたボランティアを募集。
2000年 9月	フェアトレードチーム発足

2) 事務局運営

実施内容

NPOプラザなごや2FにあるICANの事務所にて、プロジェクトに関する事務作業全般を行った。会員や一般の方からの問い合わせ対応の他、里親・給食等フィリピンでの事業や日本での事務作業の書類・領収書のまとめ、学生の訪問受入やタガログ語講座など国内での開発教育関連活動、法人化・フェアトレードに関する事務手続き、各種イベントの準備と連絡、会報の編集・発送などを行った。また、学校訪問・報告会、緊急支援募金の実施やICAN会報製作など広報全般等により、法人の活動の充実、発展を図った。さらに、月1回のペースで、事務局ミーティングを開催し、事務局運営についても協議した。

実施日時 通年(月・水・土、他 必要に応じて)

実施場所 NPOプラザなごや、国際センター他

実施形態

事務局スタッフ・代表理事・事務局ボランティア・イベントボランティア・参加者が協力して実施。

従業者数 有給スタッフ2名、無給ボランティア多数(40人程度)

受益対象者の範囲及び人数 ICAN事業の対象者及び日本のボランティア・一般市民

収支状況 収支決算書を参照のこと。

3) 理事会運営

実施内容 理事全員および会員（オブザーバー）が参加するスタッフ用メーリングリストを運用し、団体の日常の運営を話し合った。また、重要事項の決定にあたっては、定款に従いメーリングリスト上で理事会を開催し、議決手続きなどを行った。

実施日時 通年（1～2月に一回程度）但し、随時スタッフ ML で協議。

実施場所 NPOプラザなごや、国際センター他

実施形態 会員がオブザーバー参加可能なメーリングリスト内で実施。

従業者数 理事9名。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

1) 里親事業（通学支援事業）

事業内容 ミンダナオのジェネラルサントス周辺に住む貧しい家庭の子ども達を対象が学校に通えるように、学費、学用品、通学用衣類等を支援するとともに、基本的な生活指導を行う。

実施実績 日本の支援者100名に精神的な里親として参加して貰い、100名の貧困家庭の子ども達の通学を支援するとともに、子ども達に対して、衛生や栄養改善をなどの生活面の指導を行った。

実施日時 通年

実施場所 フィリピン国南コタバト州ジェネラルサントス市およびその周辺

実施形態 現地福祉法人 Love and Life Inc. (以下、L&L) に事業委託して実施した。

従業者数 無償ボランティア5名。L&L スタッフ5名。

受益対象者の範囲及び人数 貧困家庭の子ども100名とその家族。

事業支出

事業委託費(現地への送金額)	1,305,853円
内訳(2000年4月～12月の支出分まで報告有り)	
子ども達への支援(学費、学用品、制服)	686,830円
医療費	44,504円
生活指導ミーティング	31,065円
L&L 人件費(ソーシャルワーカー、事務員等)	267,770円
L&L の運営費	75,669円
パソコン購入代	81,485円
残金(2001年1月～3月の資金)	118,600円
支出合計	1,305,853円

2) 給食事業

事業目的

フィリピンの小学校で、栄養状態のよくない子ども達に栄養価の高い給食を提供し、栄養状態や健康面の改善を図ると共に、修学の意欲を高め就学率の向上にも役立てる。

事業実績

従来より支援を行っている P. Kindat Elementary School (以下、PKES(旧名称:FES))には継続して給食を提供した。さらに支援校拡大に取り組み、新たに、Sarif Mucsin Elementary School(以下 SMES)と Bawing Elementary School(以下、BES)への支援を開始した。

実施場所 フィリピン国南コタバト州ジェネラルサントス市内の3校 (PKES, SMES, BES)

実施日時 週1回の実施を基本とした。

(1) PKES : 通年実施 (下記27回実施)

7月7,14,21,27日、8月3,10,15,20,31日、9月7,15,23,28日、10月5,12,17日、11月27日、12月8,15日
2月1,8,16,22,28日、3月1,16,22日

(2) SMES : 10月より11回実施 10月18,30日、11月6,17,20,29日、12月12日、1月23,30日

2月1,6,13,19日、3月1,7,13,21日

(3)BES : 10~12月まで11回実施 10月12,19,27日、11月3,9,16,23日、12月1,8,15,22日、
1~3月も継続実施(アブサヤフのテロのために、報告が遅れている。)

実施形態 各小学校に事業委託して実施。校長を始め教師が、児童およびその親と協力して、調理、給仕、事業管理を行った。

従業者数

(1)PKES: 教師15名、及び無償ボランティア3名。

(2)SMES: 教師8名、及び無償ボランティア数名。

(3)BES: 教師14名、及び無償ボランティア数名。

受益対象者の範囲及び人数 フィリピンの公的機関評価基準に則り、子供たちの健康状態を体重・身長
の値で、「Severe(重度)」、「Moderate(中度)」、「Mild(軽度)」、「Normal(正常範囲内)」の4段階で評価し、この
内、重度と中度の子どもを給食受益対象者とした。(1)KPES 80名,(2)SMES 90名,(3)BES 220名

事業支出

事業委託費(現地への送金額) 209,211円

内訳

食費 94,510円

光熱費 5,402円

資料作成費+通信費 11,253円

食器+調理器具 5,675円

その他 3,475円

残金(次年度の事業費へ) 88,896円

3) 医療支援共同事業

事業目的

フィリピン、ケソン市、パヤタス地区において、経済的に貧しい地域住民の健康を高める。

実績

無料診療活動、無商標の安価な薬を売る薬局の運営、栄養不良児の栄養補給のための給食と母親のための
セミナーの開催などを SALT と共同で行った。

a) 無料診療活動

2000年9月から12月まで毎週一回(9月3回、10月5回、11月5回、12月3回、合計16回)
パヤタスにおいて診療活動を行った。

b) 住民薬局

住民組織が5月から6月まで自立運営を試みましたが、結局運営を始める前にごみの山崩落という災害
が起こり、住民組織の主要なメンバー3人が亡くなり、また、多くの会員が死亡したり、再定住地に移住
したため、住民組織は機能しなくなった。そのため、それ以降は SALT のスタッフ(パヤタス住民)が運営
にあたった。ICAN は理事の伊藤が薬局の運営の指導を行うとともに、薬局の運営を行う SALT スタッフ
(パヤタスの住民)の人件費の一部を支援した。

c) 栄養改善

地域の栄養不良児の栄養補給のために、週3回、3ヶ月間を1サイクルとして、栄養のある副食を提供
した。また、母親の栄養や健康に対する知識を高めるためにセミナーを開催した。

実施日時

a) 無料診療活動

9月 9日 36人、16日 18人、23日 18人、

10月 2日 24人、7日 18人、13日 11人、21日 7人、29日 0人(コミュニティーを巡回)

11月 4日 1人、11日 12人、20日 12人、25日 8人、30日 8人

12月 9日 6人、16日 16人、23日 7人

b) 薬局 年中無休 緊急時は24時間対応

c) 栄養改善 第1期) 1999年12月から2月 16人

第2期) 2000年5月から8月 14人

第3期) 2000年10月から12月 19人

実施場所

場所： ケソン市、パヤタス地区、フェーズ2 ケアセンターにて実施。

実施形態

- a) 無料診療：センターで毎回一名の医師による診察
- b) 薬局：SALT スタッフであり、コミュニティーヘルスワーカーでもある女性3名による薬の販売。
- c) 栄養プログラム：軽度から重度までの3歳未満の子供を対象に給食の提供と、母親を対象にした栄養や健康についてのセミナーの開催。

従業者数

医師1名、SALT スタッフ(パヤタス住民)3名、プログラムコーディネーター1名(ICAN 理事)

受益対象者の範囲及び人数

ケソン市、パヤタス、フェーズ2の住民およそ1500家族(人口およそ6000人)

事業支出

事業費 <当法人負担分>	83,873円
内訳(SALT分を含む)	
無料診療	19,448.35 × 2.32611PHP/円 = 45,239円
栄養改善	26,909.85 × 2.32611PHP/円 = 62,595円
住民薬局 (人件費)	48,350 × 2.32611PHP/円 = 112,467円
(諸経費)	13,393.12 × 2.32611PHP/円 = 31,154円
(売上)	14,925 × 2.32611PHP/円 = 34,717円
(合計(SALT分を含む))	216,738円
支出合計	148,277円

4) 職業訓練事業

事業目的

パヤタスで将来開設される予定の作業所で技術指導する指導員を養成するために、住民の中から選定した候補者に、職業訓練校で研修させる。訓練校に通うための交通費や食費を支援する。また、パヤタスの女性を対象にワークショップを開き、収入につながる裁縫などの技術を習得してもらう。

事業実績

2000年3月から7月まで3人の女性に TESDA WOMEN'S CENTER でハンディクラフトのコースを履修してもらう。センターでの研修がほぼ終了し、工場などへ実地研修へ行く直前に、パヤタスのごみ捨て場が崩落するという災害が起こり、研修生の1名は死亡、他の2名は家族を失ったり、家が被災し非難していたために研修を続けることを断念せざるを得ませんでした。

2000年8月から10月まで行ったぬいぐるみ作りのワークショップには、36名の女性が参加し、14名がぬいぐるみを作って収入につなげることができるようになりました。11月から始まったハンディクラフトワークショップには11名の女性が参加し、6人が筆入れや小銭入れなどを作れるようになり、収入を得られるようになりました。

実施日時

人材養成 2000年3月20日から7月まで。

ぬいぐるみワークショップ 8月19日,30日、9月6日,13日,20日,27日、10月4日,11日,18日,26日。

ハンディクラフトワークショップ 11月29日、12月6日、13日。

実施場所

人材養成 タグイグ市、TESDA WOMEN'S CENTER

ワークショップ ケソン市、パヤタス、フェーズ2、SALT センター

実施形態

人材養成 TESDA WOMEN'S CENTER に通うための交通費食費を支給。

ワークショップ マニラ在住日本人ボランティアに講師をつとめてもらい、技術指導する。ワークショップ開催時にはおやつを提供する。また、参加者にはお米1キロを支援する。

従業者数(ワークショップ)

日本人ボランティア4人。日本人スタッフ1人。ワークショップ助手1人(TESDA 研修を修了した女性)

受益対象者の範囲及び人数

人材養成 パヤタス、フェーズ2 出身の女性3人

ぬいぐるみワークショップ パヤタスとモンタルバンの再定住地在住の女性36人(14人が修了)

ハンディクラフトワークショップ パヤタスとモンタルバンの再定住地在住の女性11人(6人が修了)

事業支出

事業費(職業訓練事業費として計上)	290,826円	
内訳		
人材養成		114,183円
ワークショップ		16,572円
ミシン購入費		96,627円
試作費		31,554円
カード購入費		31,890円

5) フェアトレ支援事業

事業内容

パヤタスのワークショップで、技能を身に付けた人を中心に作業所を開き、そこで制作された物品をフィリピンや日本で販売する。この売り上げの約20%は労賃として支払われる。これにより制作者であるパヤタス住民の生活向上が図られる。

実績

1) 販売用物品の製作 製作品の第一段として、くまのぬいぐるみを作製。製作者に材料を支給の上、各自の自宅で作製。受入検査に合格したものを有償で引き取った。現在までに住民の女性20名が参加。製作数は1100個余り。

2) 販売実績 フィリピンではパヤタスへの訪問者やバザーで販売した他、日本の他団体へも送付し販売した。日本では、バザーやイベントにブースを出展した他、フェアトレードショップなどの店舗での委託販売を行った。

a) バザー出展 10月 犬山お城祭り

11月 ICU大学祭、岐阜フェアラム21

12月 犬山おもしろそうだがや、犬山国際貢献フェア、児童労働イベント

b) 店舗への委託販売：風's、スペース・スパイス・スタジオ、夢中食堂、YWCA

実施日時 事務所に問合せのあった方への通信販売(通年)、バザーでの販売(不定期)

実施場所 バザー、イベントによる(不定期)、店舗への委託販売

実施形態 販売品の作製：パヤタス住民による内職。受入はコーディネータが担当。
販売：有給スタッフおよびボランティア参加によるバザー/イベント出展
店舗への委託販売

従業者数 ボランティアスタッフ(約10名)、プログラムコーディネータ(当法人理事)

受益対象者の範囲及び人数

作業員(パヤタス)：20名(主に女性対象)

事業支出

労賃(マニラ)	128,006円
材料費(マニラ)	50,008円
買物時の謝礼(マニラ)	1,986円
カード購入代金(マニラ)	15,017円
その他の支出	6,499円
支出合計	201,516円

6) 農村開発支援事業

事業目的

開発から取り残された山村サンイシロで、住民の生活水準や教育水準向上を支援する。

事業実績

先住民の住民組織MASAKAを經由して、先住民を対象としたプレスクール(幼稚園)の運営を支援した。また、1999年秋にねずみにより米収穫量の90%を失った先住民の家庭に対して復興のため、焼き畑用種籾と

水田用肥料を提供した。さらに、果樹木の苗や地鶏を5～10軒の住民に配布し、3～8月までの6ヶ月間、現地調整員により家庭単位の植林と養鶏の技術指導を行った。9月に現地調整員が退職し、これに伴い、植林および養鶏に関してはモニター実施に切り替え、プレスクールへの支援を中心課題とした。来年は、奨学金事業と統合し、山村教育支援事業とする。

実施日時 通年

実施場所 フィリピン共和国リサール州アンティポロ市サンシロ地区

実施形態 住民組織 MASAKA を通じて助成する。

従業者の人数 スタッフ1名。無償ボランティア5名。プログラムコーディネータ(当法人理事)1名。プレスクールの教師1名、現地調整員1名。MASAKAのスタッフ5名。

受益対象者の範囲及び人数

プレスクール : 11人の子ども達(キダー5名、ナーサリー6名) 先生は2人。

ねずみの被害者支援 : 先住民の50～60家庭。

家族単位植林&養鶏 : 植林 10家庭、養鶏 5家庭。

事業支出

事業費		355,473円	
内訳	プレスクール		143,376円
	ねずみの被害者支援		143,457円
	家族単位植林		15,740円
	養鶏		5,149円
	調整員謝礼		47,478円
	その他		273円
支出合計		355,473円	

7) 奨学金事業

事業目的 フィリピンの児童労働者、特にサンシロの先住民の子どもを対象に奨学金を提供し、主に学費、学用品を提供し、学校に通う支援を行う。

事業実績 サンシロの先住民の子どもを4人選抜し、小学校6年生2名およびハイスクール1年生2名への通学に対して、学費を支援した。また、必要に応じて制服を支給した。今年途中で断念する子どもが多く、結局12月現在小学校6年生1名のみが通学している。2001年の奨学生の募集では、学校へ通う意欲のある子供を捜し出し、中退することのないようにしたいと改善する。2001年からは、農村開発事業と統合し山村教育支援事業として実施する。

実施日時 通年

実施場所 フィリピン共和国リサール州アンティポロ市サンシロ地区

実施形態 サンシロ地区では住民組織 MASAKA と協力して助成を行った。

従業者の人数 無償ボランティア3名。コーディネーター(当法人理事)1名、現地調整員1名。MASAKAのスタッフ5名。

受益対象者の範囲及び人数 サンシロの先住民の子ども4名

事業支出

事業費	子ども達の学費および制服代	37,826円
-----	---------------	---------

8) カード交流事業

事業目的 フィリピンの子どもたちとのクリスマスカード等の交流を通じて、国際理解や国際交流を深める。また、現地の学校からの通信費を支援し、交流の増進を図る。

事業実績 夏のカード交流キャンペーンおよびパピニューイヤーカードキャンペーンを行い、多数の学校および一般の方のご協力を得て、現地の小学校などにカードを渡した。

実施日時 通年

実施場所 日本国内およびフィリピンの関係団体(含、学校)など

実施形態 フィリピンでのカードの配布には、提携団体および学校が協力して実施した。また、手紙のフィリピンまでの運搬は一部ボランティアの手で行われ、経費を押さえることができた。

従業者の人数 無償ボランティア6名。

受益対象者の範囲及び人数 日本国内およびフィリピンの関係団体(含 学校)などの子ども達の他、
一般市民20名

事業支出

事業費 フィリピンまでの送料 6,900円

9) 生活物資提供事業

事業内容 フィリピンの各事業地で必要としている文房具、衣類、医薬品、食料などの支援物資を提供する。

事業実績 多数の学校および一般の方のご協力を得て、年に数回、ミンダナオの小学校や支援団体に文房具などを送付した。

実施日時 通年

実施場所 日本国内およびフィリピンの関係団体(含、学校)

実施形態 物資の送付先および現地調達分の提供先を当法人の調査により決定し、物資を提供する。

従業者の人数 無償ボランティア10名。

受益対象者の範囲及び人数 フィリピンの関係団体(含、学校)などの子ども達1000名ほど

事業支出

事業費 フィリピンまでの送料 20,000円

10) スタディツアー事業

事業目的 フィリピンで行われる事業や貧しい人たちの現状を視察し、現地住民と参加者との交流を図るとともに、参加者の国際理解を増進する。

事業実績 パヤタスおよびサンイシロの事業地を中心に、計3回のツアーを実施し、述べ18名が参加した。日本の一般の方を対象にした報告会を通じて、体験した内容を分かち合った。

実施日時 2000年2月、3月、7月の計3回

実施場所 フィリピン共和国メトロマニラ首都圏、リサ-ル州。

実施形態 当法人が企画、旅行代理店に委託して実施した。募集は、新聞、WEB、会報などで行った。

従業者の人数 スタッフ3名。無償ボランティア5名。

受益対象者の範囲及び人数 会員および一般の方 18名

事業支出

旅行代理店への支払い(航空券、宿泊費、保険料等) 1,066,520円

宿泊費(現地手配分) 73,280円

現地食費 121,527円

謝礼金等(ガイド代、訪問先等) 147,564円

現地交通費 67,430円

資料送付代 4,310円

資料作成費 5,834円

送迎時の交通費 3,750円

その他 20,999円

支出合計 1,511,214円

11) 写真展開催事業

事業目的

過酷な環境で働き続ける子どもたちの実状を捉えた写真を展示し、多くの方々に見ていただくことにより、児童労働の現状と問題点について認識を深めていただくとともに、共に考えていくための一助とする。

事業実績

ア ICAN主催写真展 1回

イ ICAN後援写真展 4回

実施日時

ア ICAN主催写真展 8月4日~8月5日

イ ICAN後援写真展 10～12月
 実施場所
 ア ICAN主催写真展 名古屋国際センター展示室
 イ ICAN後援写真展 東京都2回、神奈川県1回、愛知県1回および京都府1回を実施
 実施形態

ア ICAN主催写真展
 名古屋国際センターの後援を受け、フィリピンのドキュメンタリー作家、サダナ・ブクサニ氏はじめ、逸見氏、熊井氏の写真、総数約50枚を展示。入場料一般200円/高校生以下100円にて一般に公開。

イ ICAN後援写真展
 他団体等の申し入れにより、サダナ・ブクサニ氏および熊井氏の写真を貸出し、展示。

従業者数 無償ボランティア 約10名

受益対象者の範囲及び人数 一般市民 約100名

事業支出

事業費	190,898円	
内訳	写真家への謝礼(含、写真代金)	99,331円
	フレーム作成費	60,228円
	会場費(名古屋国際センター)	16,450円
	資料送付代	630円
	その他(消耗品等)	14,259円
支出合計	190,898円	

(2) 収益活動に係る事業

1) リサイクルバザー事業

事業内容 会員や一般市民から提供された不要品をイベント等で販売する。

実施日時 地球市民まつり(9/30、10/1)

実施場所 名古屋国際センター

実施形態 ボランティアの協力を得て、実施。

従業者の人数 無償ボランティア10名。

事業支出

会場参加費	4,000円
支出合計	4,000円

4 その他の報告事項

1) 緊急支援対応

事業目的 2000年7月にパヤタスで発生したゴミ山崩落により、被災した家族およびこの災害に伴うゴミ処分場閉鎖で職を失った人たちの復興支援のため、経済的、精神的なサポートを行う。

事業実績 災害直後から SALT および ACCE と共同で、被災者に対して、家庭訪問によるメンタルケア、医薬品および必要物資の提供、情報の提供などを行った。大きな災害であったため、フィリピン全土から緊急支援物資が届いたこと、SALT および ACCE と共同で緊急支援を実施したことから、物資面での支出は少なかった。災害後40日後の8月19日にマニラでミーティングを開き、今後の支援の対象を、被災者のうち、無職、元専業スカベンジャー、母子家庭など、最も厳しい状況にある人々に絞り、その人たちの復興を支援することとし、現地での支援体制を拡充することになった。

マニラに日本人ボランティアを派遣したり、マニラ在住のボランティアの協力を得て、医療支援、職業訓練支援、作業所製作品販売支援などを強化して実施した。

実施日時 2000年7月10日～12月31日

実施場所 フィリピン共和国マニラ首都圏ケソン市パヤタス地区およびリサール州モンタルバン町カシグラハンビレッジ

実施形態 被災直後の緊急支援は、SALT および ACCE と共同で実施。事業としては、パヤタス関連事業（医療、職業訓練）の一環として行った。

従業者の人数 スタッフ1名。無償ボランティア5名。SALT および ACCE のスタッフ10名。

受益対象者の範囲及び人数

ケソン市、パヤタス、フェーズ2の住民およそ1500家族(人口約6000人)

パヤタスに住む女性40名とその家族

事業支出

フィリピンでの緊急支援経費(緊急支援費に計上) 66,321円

<残金は、被災者等への継続的な支援に役立てる。>

2) 児童労働WT

事業内容

貧困のため学ぶ権利はおろか生きる権利すらも十分に守られないような過酷な環境で働き続ける子どもたちについての認識を深めるための勉強会を開いたりNGO・NPOのイベント参加や学校訪問活動などを通してより多くの人たちに児童労働の問題の根深さを理解してもらう。

実績

児童労働に関する学習会実施、児童労働ワークショップ実施、学校訪問、児童労働写真展開催

実施日時

NPOプラザにて学習会(通年)

6月、「一緒にやろまいNGO」参加、児童労働についてのワークショップ実施

8月、児童労働写真展開催

11月、一色中学訪問

12月、児童虐待防止イベント出展

実施場所 NPOプラザ、国際センター、一色中学、白鳥国際会議場、他

実施形態 テーマ学習・自由討論(学習会)、児童労働のビデオを活用してのワークショップなど

従業者数 無給ボランティア10名、有給スタッフ1名

受益対象者の範囲及び人数 児童労働者、一般市民